

1 はじめに

日高中学校の特別活動については、コロナの影響もあり、例年通りの活動ができないことが考えられた。そこで、例年通りの活動を継続できることは継続し、継続できないことはどのようにすれば実施できるかを生徒と教員で考えることで、新しい取り組みを実施した。

2 資料

(1) オンラインでの学校行事の進行

現在、全生徒が集まる機会が取れない状況の中、オンラインでの学校行事の進行に取り組んだ。文化祭や生徒会役員選挙などを Teams のオンライン機能を活用して、進行を行った。特に、文化祭については、3年生の生徒会役員が中心となって、体育館でのビンゴ大会や特技発表などの企画を運営することができた。ロアにてオンラインでの様子を確認しながら、ビンゴ大会の景品の受け渡しを行ったり、進行を進めたりすることで、遠隔でも臨場感をもって、文化祭を進めることができた。



【オンラインで文化祭を視聴する様子】

(2) 朝のあいさつ、校歌運動

日高中では、コロナの影響なのか、「朝の元気なあいさつが少ない」という声が生徒から挙がり、生徒会があいさつ運動を企画した。毎週月曜日の朝、生徒会が中心となり、元気なあいさつをすることで、学校全体を明るく元気にしていこうと取り組んでいる。また、例年であれば、学校行事や集会時に校歌を歌う機会がある。しかし、現在は歌う機会が授業のみで、校歌に対する気持ちが離れてきていると感じる。「校歌を身近に感じてもらおう」と、毎朝の登校時間に校歌を流すことにした。生徒会本部役員からは、「校歌」という存在が生徒に身近なものとなるよう、今後も他の取り組みを考えていきたいという意見が出ていた。

(3) 全校道徳の実施

自分や他者の気持ちを大切にできる思いやりのある生徒の育成に向け、日高中では今年度、集会委員を中心に縦割り班での全校道徳を実施した。全校をあげて「いじめをなくすために自分ができること」をグループで考えたり、思いやりの木を作成したりすることで、いじめを許さない気持ちを育むことができた。



【縦割り学級での道徳の様子】



【縦割りでの活動の様子】

3 成果と課題

- (1) 全校で集まる機会がない中、放送やライブ配信を活用した活動を通して生徒の自主的な活動を促すことができた。しかし、映像の乱れや音量の調節など、オンラインならではのトラブルがあったことから、教員側のオンライン活用の研修等の必要性が感じられた。
- (2) 朝の校歌運動により、自然と校歌に愛着をもてるようになってきている。
- (3) 生徒の人数が多い委員会では、教師と生徒で活動を考え実行することで、自主性を育てていく必要がある。